

令和6年度個別学力試験問題

小論文

(教育学部初等中等教育コース)

解答時間 60分

配点 100点

注意事項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 解答は解答用紙の指定された場所に横書きで記入してください。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

PISA*の調査ではデンマークをはじめ、ヨーロッパの国では学習へのICT活用率が高い傾向があります(OECD, 2015)が、だからと言ってそれが理由で学力が高くなったという話は聞きません。実は、面白いことにICTに多額の設備投資した国に学力の向上は見られなかったという事で、さらにはICTを積極的に使う学生の成績が低い傾向が見られたとのことです(OECD Tokyo Centre, 2015)。

これらのことを考慮すると学力はICTを使う使わないというより、教師の教え方が上手か否かにかかっているのではないかと考えられます。そして、日本の教師の質はとても高いのです。先ほどの化学や数学の授業も生徒の興味関心を引き付ける、生徒の記憶に残るような良い授業で、そのために上手くICTを使っていました。しかし、「その授業がICTを使わないと成り立たない授業か？」と問われれば、「そうでもない」というのが答えで、「ICTが教育を変えたか？」と言われれば、強いて言えば少し便利になった、いくらか楽しくなった程度のメリットしかないというのが、現在の学校の現場の正直な声だろうと思います。

(中略)

ICTを使わなくても学力が上がるのであれば、わざわざICTを教育に使う必要はありません。しかし、ここで言われている「学力」を考えるときには注意が必要です。なぜならば、この学力は「問題が解けるか否か」で測られているからです。出題者がどんなに知識だけでは解けないように工夫したとしても、それを解く立場の学生は、複雑化した問題に対応できるようによりたくさんの知識を詰め込み、さらには出題者が行うであろう工夫をも問題のパターンとしてとらえ、その解法を覚えるでしょう。そしてそれができた者が高得点を取れる、すなわち学力が高いという仕組みです。

特に、日本の教師は、将来の受験を見越し、受験で問われるところを詳細に分析し、その解法を丁寧に指導しています。そのように指導されれば、テストで高得点を取れるようになっていくのは当然と言えるでしょう。そして、テストで問われる内容を学ぶことにICTを活用する必要性は今のところ特にないということです。ただでさえ低いICT活用が、学年が上がるにつれ減っているのはそのことを如実に物語っています。

ここに、これからの時代に求められる力との大きなギャップが生じています。2017年公示の新学習指導要領でも示されている通り、これからの時代では、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められます。そして、学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力として「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性」「生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」をあげています。(中略)これからの時代は、学んだことを人生や社会に

生かすことができること、生きて働く、すなわち今後も使える(使うであろう)知識や技能の習得、そして未知の状況にも対応できることが重要なのです。なぜならば、これからの時代は「予測困難」な時代だからです(これも指導要領に書いてあることです)。近い将来は、答えのない問題に取り組み、自分で解答を作り出していく、新しい知を生み出すことが必要となります。

注) *OECD(経済協力開発機構)が進めている国際的な学習到達度に関する調査のこと。

(出典：佐藤克美,「AI時代の「数学」「理科」」, 渡部信一編,『AI時代の教師・授業・生きる力ーこれからの「教育」を探るー』, ミネルヴァ書房, 2020年より抜粋・一部改変)

問1 文章全体を200字以内(句読点を含む)で要約しなさい。

問2 下線部の著者の主張を、学校においてどのように実現することができますか。あなたが教師になったときの視点から、自分の考えを400字以内(句読点を含む)で述べなさい。